

ICTの日常的な活用の推進

◆ 教育局の学力向上策の概要

- 考えをまとめ、表現する学習活動の工夫について指導助言
 - ・身に付けた知識及び技能等を生かし、自分の考えをまとめる活動の重要性
 - ・交流の視点の明確化と交流後に自身の考えを加筆・修正する場面の設定
 - ・交流場面におけるICTの効果的な活用
 - ・指導と評価の一体化による交流場面の充実

◆ 学力向上策に関連した特色ある取組

取組のポイントとその具体

■ 1 授業における個人解決や集団解決でのICT活用場面の設定（浦幌町立浦幌中学校）

- ・生徒が自らの学び方を選択し、個別または協働的に学習を進めることができるよう、授業においてICT活用の場面を位置付けることについて全校で確認した。
- ・平方根の単元の終盤の授業では、ロイロノート（学習アプリ）に練習問題を配信し、生徒は、自身の進捗状況に応じて配信された解法を確認し、分からないことを教師に質問したり、友達に相談したりするなどして自分のペースで学習を進めた。
- ・教師は、端末により生徒の取組状況を確認するとともに、教室内を巡回し、手立てが必要な生徒への支援を行った。



【ICT端末を活用して個人解決や集団解決している様子】

■ 2 芽室町内の小・中学校教員を対象にしたICT研修会の実施（芽室町教育委員会）

- ・町教委は、町内の学校におけるICTを活用した授業実践を共有するとともに、教師同士が日常的なICT活用について相談し合う学習会を町教育研究所と共催で実施した。
- ・芽室町内の小・中学校4名の教師が講師となって実践紹介や模擬授業を行った。
- ・模擬授業を通して、参加者が個別最適な学びや協働的な学びの場面におけるICTを活用した学習活動を体験したことにより、端末の操作や有用性について理解が深まり、ICT活用や授業改善への意欲向上につながった。



【ICT研修会における模擬授業の様子】

◆ 成果・課題

- ・全国学力・学習状況調査の学校質問調査において、授業の様々な場面で1人1台端末を活用させたと回答した学校の割合が令和5年度の調査結果と比べて高くなるなど、各学校での教職員の1人1台端末の活用を通じた授業改善の取組が進んできた。
- ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査から授業の様々な場面で1人1台端末を活用したと回答した児童生徒の割合が、全国や全道と比べて低い傾向にあることから、学校訪問等により、生徒が日常的にICTを活用するよさを実感できるよう、具体的な授業場面における改善方策について指導助言を行う必要がある。